

平成22年度 仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A;優れている B;良好である C;やや課題あり D;改善の必要あり

大項目	番号	評価項目	自己評価	学校関係者評価		今後の改善に向けて
				評価	評価に対する説明	
I 学校経営全般	①	学校経営管理全体計画は、社会のニーズ、児童や地域の実態、学校の課題を踏まえたものになっている	・学校教育目標「生命・自立・支えあい」は、めざす子ども像、めざす教師像などにより具体化され、児童や地域の実態に合っている。学校協力者アンケートでは「あてはまる 56.3%」「ややあてはまる 43.7%」であり、地域からも支持されている。	A	・学校教育目標は児童や地域の実態に即したものである。保護者や地域の方に更に学校行事への参加を呼びかけたり、学校通信等でよりわかりやすく説明し、学校教育目標を保護者・地域にさらに周知させていかなければならない。	・めざす子ども像の具現化に向け、学校教育目標を保護者・地域と共有していくように、今後も努力し続ける。
	②	重点目標の設定は適切で、教育実践につながりやすいものとなっている	・重点目標「人とのかかわり、ふれあいを大切に」や具体的な方策は適切であり、的を射たものとなっている。今後も年間指導計画の中で重点的に取り組む内容を明確化したり、校務分掌のあり方を工夫したりすることにより、実践につながりやすいような対策が必要である。	A	・学校と保護者・地域が連携を図り、取り組めるように重点目標が設定されている。地域とのつながり、たてわり活動による異年齢での交流などはその目標に取り組むための実践であると感じられる。	・全教職員が一つの目標に向かって共通理解と共通実践ができるような組織づくりと具体的な方策づくりを進めていく。
	③	学校の教育活動は参観、通信、HP等により積極的に地域や保護者に公開されている	・広報活動や学校行事により積極的に学校情報を公開している。学校だよりについては地域にも回覧している。ホームページについては今年度よりシンプルなものに形をかえ、定期的に更新している。今後も引き続き子どもたちの様子を発信していきたい。	A	・里小だより、学校ホームページなどにより、積極的に学校の情報が伝えられ、多くの行事・活動が公開されて見やすいものとなっている。参観日については上下学年でわけたり重ならないように工夫がされている。 ・今後は学級通信の発行回数のバラツキがないように配慮するなど、よりいっそう情報の公開を期待する。	・保護者がより参加しやすいように参観の期日や時間帯を工夫したり、学習指導を工夫していく。 ・我が子に関する情報への関心は高いので、子どもに関する内容をできるだけきめ細かく知らせていく。
	④	保護者負担の軽減をめざし、公費と保護者徴収金をトータル的に考えた予算計画をたてるとともに、執行や帳簿の整理を適切に行っている	・一昨年度より毎月の保護者徴収金を年間通して均一にするシステムに変更した。教職員もこのシステムに慣れ、スムーズに運用できるようになってきた。	A	・月々の徴収金額が均一化され、とても便利になった。また保護者負担を考えた対応がなされ、適切に処理されている。 ・今後は保護者徴収金の有効な活用とその理解を深めるための対応を考える必要がある。	・経済情勢が厳しくなっており、保護者負担の軽減に努力していかなければならない。教材の精選を目指しさらに努力していく。
II 教育課程・学習指導	⑤	新教育課程への移行に向け、各教科等の全体計画、年間指導計画、配当授業時数、年間行事計画、校務分掌、日課表が検討され、改善が加えられている	・今年度は高学年で年間24時間の外国語活動を計画し、実施している。来年度より、新教育課程が本格実施となるので、新教育課程の趣旨に合わせた教育課程を全職員で編成し検討をすすめてきた。 ・校務分掌では、昨年度の反省をいかし、仕事や研究が機能するようABC部会制の会議を設定した。放課後の会議がもちにくい状況ではあるが、人数が少ない中、あっぱれ祭やペースランニング大会の計画・立案・運営など少しずつ整理されつつある。今後もチームで協力して動けるような工夫が必要である。 ・2学期に実施予定の学校行事が多いため、子どもたちも10月から11月にかけて大変忙しい。年間行事計画を見直し、調整していく必要がある。	B	・新教育課程への移行に向け、各教科等の全体計画、年間指導計画配当授業時数、年間行事計画、校務分掌、日課表等の多様な業務が検討され、関係者にも概ね理解され、年次と共に改善されつつある。 ・様々な検討材料がある中で、改善の努力がされているが保護者・地域のニーズも多様化しているため改善策の優先順位の精査がさらに必要である。運動会の日程、学校行事の日程、校務分掌などの検討も必要である。	・新教育課程の趣旨にあわせるとともに、子どもの実態を踏まえた年間計画の作成に努める。 ・地域ボランティアの活用を図り、体験活動を取り入れた子どもたちの心に響く学習を意図的に計画していく。 ・学校で力を入れていることがよく分かるような教育活動を重点的に行っていく。 ・事務的な仕事についてはITを活用し軽減を図っていく。
III 学級経営・生徒指導	⑥	教育相談体制が整備され、家庭や関係機関との連携がなされ、全教職員の共通理解と協力の下、生徒指導が行われている	・共通理解と共通実践が大切である。子どもの望ましい姿を意識し、重点的に取り組む内容を明らかにして、同一学年の担任が協力したり、学校全体として歩調を合わせたりして実践していくべきである。また、子どもとじっくりと向き合う時間をつくるのが大切であると考え、今年度は教育相談週間を設定した。担任が、一人ひとりの児童と話をする時間を設定することで児童の様子をより深く把握することができた。今後も普段から相談しやすい雰囲気をつくるとともに、担任以外の教職員と相談できる場も必要であると考え。	B	・熱心な生徒指導がなされている。保護者とのコミュニケーションを大切にし、細かく連絡をとりあいながら指導を進めてほしい。職員間で児童に対する指導意識にばらつきがないよう共通理解のもと指導体制を組み、一人ひとりの子どもたちが有意義な学校生活を送れるよう今後もがんばってほしい。 ・教育相談体制は整備されているが、児童のアンケートをみると子どもたちの相談相手の先生の順位は低いので、保護者と全教職員とが連携し、さまざまな問題をすいあげていく努力をすることが肝要である。	・子どもたちと教職員が心でつながることが大切なので、一人ひとりの子どもと関わる時間を大切にしていこう。また、問題が発生したときだけでなく平素から教職員が協力し合い同一歩調で教育に当たれるようにするとともに、保護者との連携を深め、きめ細かく連絡をとりあうよう心がける。

平成22年度 仰木の里小学校 学校評価書

IV やる気いばいの子ども	知識や技能の育成、知識や技能を活用する思考力・判断力・表現力の育成に向け、授業改善が行われ、子どもたちに確かな学力が身につけている	・保護者アンケートの「学校は学力の育成に努めている」では「あてはまる 39. 3%」「ややあてはまる 50. 2%」となっている。子どもたちの知識や技能面の学力の育成に今後力を入れていくとともに、学習内容が適切に指導されているか、朝学習の内容が確実に指導されているか、朝読書の取り組みは適切であるかについて引き続き検討していく必要がある。今年度の校内研究では、「自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」をテーマに研究をすすめてきた。授業実践を通して課題や成果がみえてきたので、今後も自分の思いや考えをきちんと持つための基礎学力の充実を図るとともに、お互いを尊重しあいながら思いや考えを伝え合う力や態度を身につけさせる取り組みを続けていきたい。	評価 B	評価に対する説明 ・子どもたちの知識や技能面の学力は概ね身に付いている。さらに知識の育成、知識や技能を活用する思考力、判断力、表現力の強化が必要であり、授業改善等の努力をされているが目標レベルまでは到達していないので今後も継続を願う。また授業に対する姿勢に、ばらつきがあったりするので今後より一層ひとりでも多くの子どもたちのやる気をひきださせ、集中できるような授業を期待する。 ・参観時の私語も気になるので大切なポイントをおさえて話を聞けるような指導を、また実生活に役立つ学習につながる展開をすすめてほしいと願う。
V 思いやりいばいの子ども	思いやりの心を育むとともに、社会のルールを守る子どもの育成をめざし、人とのかわりやふれあいを大切にしながら道徳教育や特別活動に積極的に取り組んでいる	・保護者アンケートの「学校は思いやりの気持ちや社会のルールを守る気持ちを育てている」では「あてはまる 38. 8%」「ややあてはまる 50. 0%」である。また、自己評価の「生命の大切さや社会のルールを身につけることができるよう、道徳の時間を中心として、学校教育全体で指導がなされている」は「あてはまる 11. 1%」「ややあてはまる 83. 3%」である。子どもたち一人ひとりの姿を見ると十分に育っていないと感じる場面もまだまだ多くみられる。総合的な学習や学校行事、縦割り活動、委員会活動などを通して、人とのふれあいを大切にしていきたい。	B	・道徳教育や特別活動に積極的に取り組み、低学年は遊びの中で社会生活にはルールがあることを学び、高学年は組織の規範の必要性を学び、教育指導効果がでている。あいさつに関しては、学校全体でとりくんでいて気持ちよくあいさつする子が増えてきている。 ・たてわり活動などいろいろな人とのふれあいの場面がつけられているので思いやる気持ちをもった児童の育成につながっている。家庭での親子関係を基本に思いやりのあふれた地域になるよう今後も期待する。
VI 元気いばいの子ども	進んで心と体を鍛えるたくましい子どもをめざして、体力づくり、保健教育、安全教育に計画的に取り組んでいる	・体力づくりも、目標の設定や評価によって、誰かからやらされているのではなく、自分で進んで取り組めるようにさせたい。 ・自己評価では「食育の指導は適切かつ計画的に実施されている」では「ややあてはまる62. 5%」となっている。日々の給食指導をはじめ学校全体として適切に行われるように今後も努力していきたい。同様に性に関する指導、安全教育も発達段階		・校内研究や個々の研鑽を通して児童のやる気を引き出す指導力を身につけていく。年々児童数が減り、仲間関係が固定したり、序列化したりする傾向がでてきている。優れた力もちながらも自信がもてなかったり、周りにあわせてしまったりして力が十分に発揮できない児童もいる。言語活動に重点をおき、自分の思いや考えを伝え合い、規律ある学習環境の中、だれもが安心して自己実現できるような授業改善をめざしていきたい。 ・学習規律や基礎・基本習得の徹底を図る。
				・いろいろな人に気持ちのよい挨拶が自然にできるように、「あいさつ運動」等さらに働きかけていく。 ・PTA主催の子育て講演会などの企画により、子育ての悩みについて考える機会や子どもへの対応の仕方を学ぶ機会を検討する。 ・思いやりの心は学校だけで育つものではないので、家庭や地域と連携し共に考えていきたい。